

マイナンバーカード利用促進に関する取り組み

2023年9月13日

日本調剤株式会社
代表取締役 三津原 庸介

日本調剤株式会社 概要

- 会社名 : 日本調剤株式会社
- 本社 : 東京都千代田区丸の内1-9-1
 グラントウキョウノースタワー37階
<https://www.nicho.co.jp/>
- 設立 : 1980年3月
- 資本金 : 39億5,302万円
- 売上高 : 3,133億円 (2023年3月期・連結)
- 従業員数 : 6,478名 (2023年3月期・連結)
- 店舗数 : 730店舗 (2023年9月1日時点)

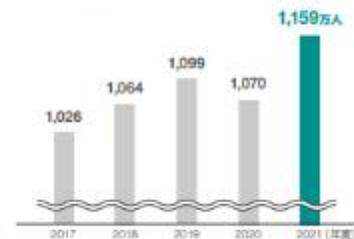


1,159万人

この数字は、1年間で私たちの調剤薬局をご利用いただいた患者さまの人数です。これだけ多くの患者さまの健康といのちに関わらせていただいていることにしっかりと向き合い、患者さまに寄り添い続けていきます。

※延べ患者数

日本調剤の薬局をご利用いただいた患者さま (万人)



①

マイナンバーカード、薬剤情報の利用状況

②

マイナンバーカードの薬局での利用促進について

③

課題

マイナンバーカード受付 14万8千件/月 (全処方箋受付の11.3%実施)

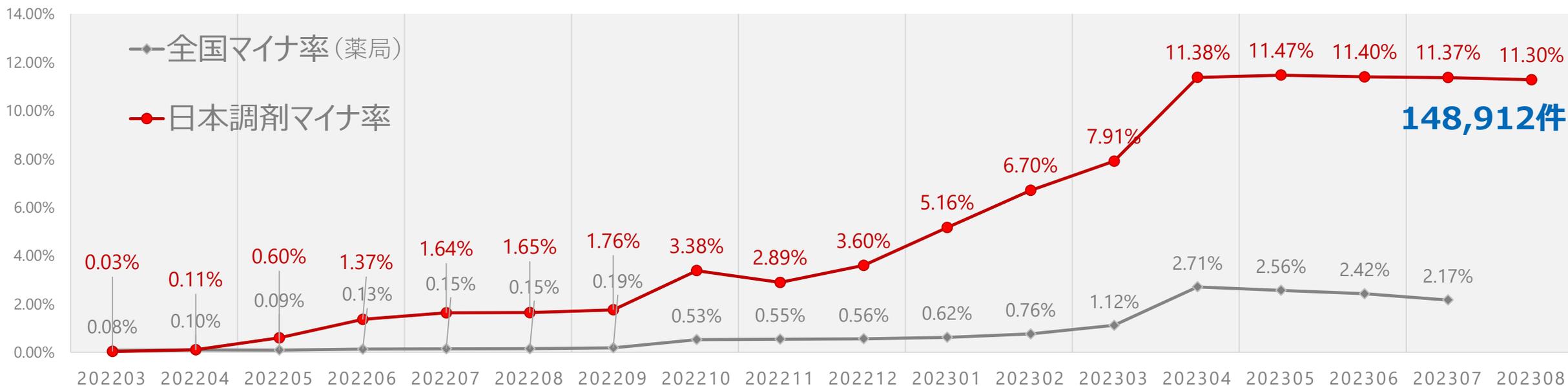
全国薬局(推定値) : 2.17%



日本調剤(全店平均) : 11.37%

2023.7時点

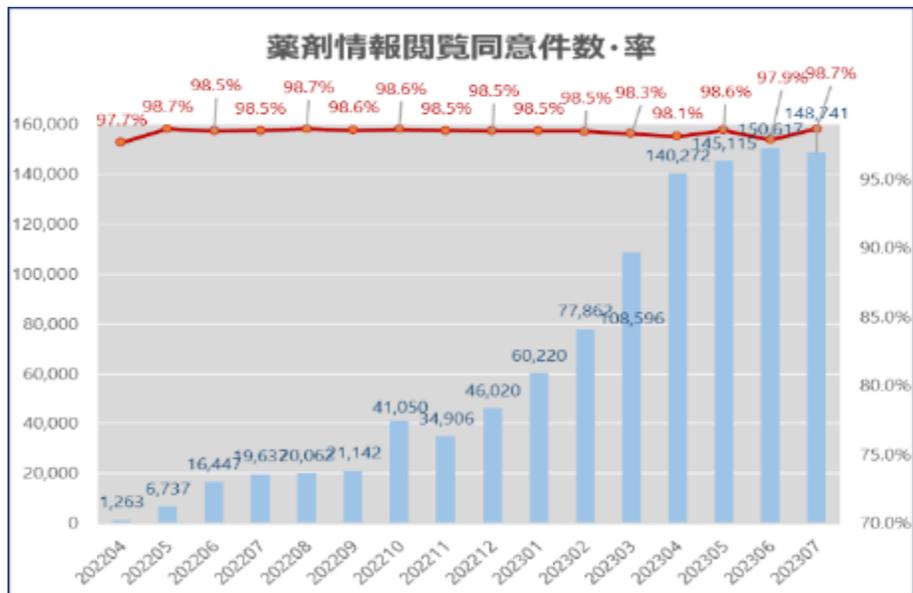
マイナンバーカード利用率推移



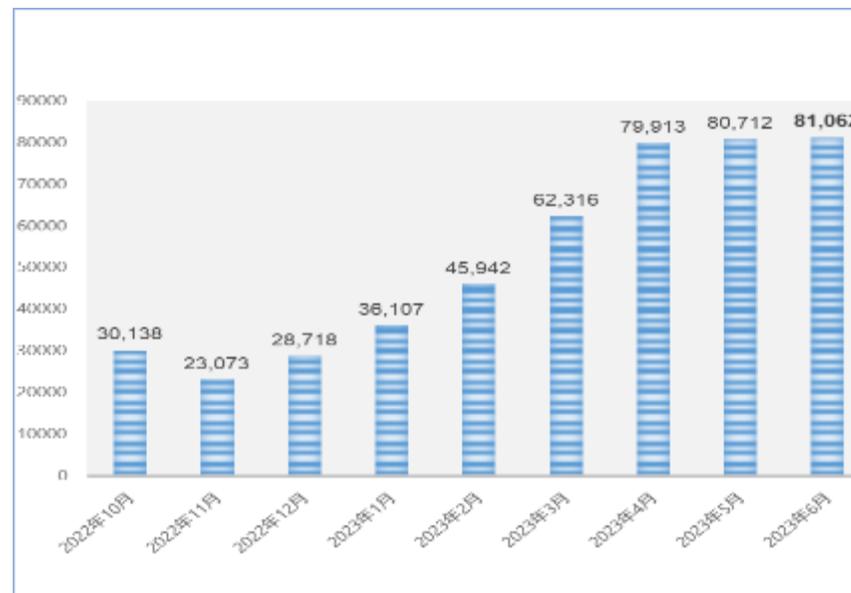
148,912件

日本調剤株式会社：社内調査資料

※全国マイナ率は2020年間処方箋枚数の8.6億枚からの推定値
 ※2023年9月4日時点の取得データのため、全国マイナ率は未更新
 ※2023年8月の全受付回数：1,317,646件
 ※2023年9月1日現在の店舗数は730店舗となります



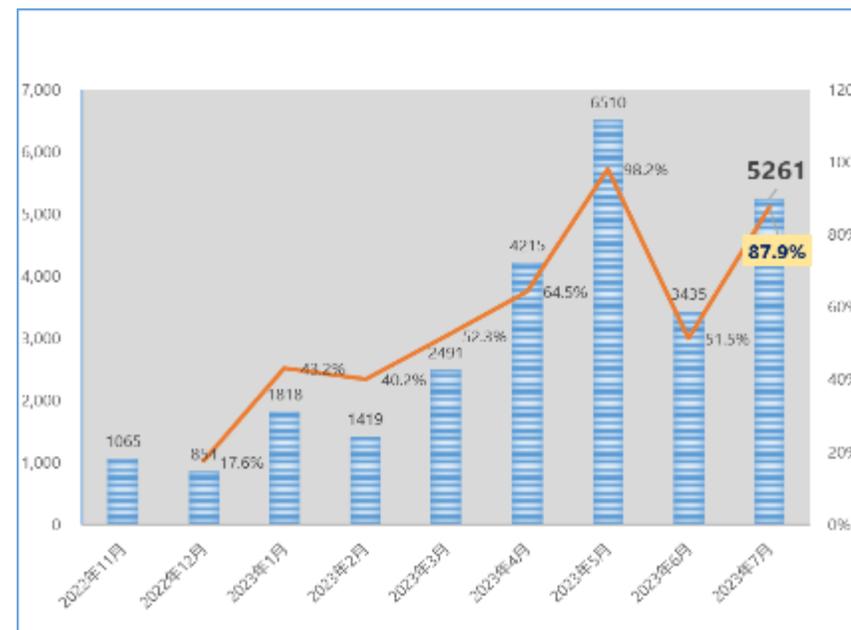
薬剤情報
閲覧同意率
約99%



薬剤情報
取得確認回数
約8万件/月



特定健診
閲覧同意率
約90%



重複投薬
チェック回数
約5000件/月

▶ 薬剤師や薬局スタッフの行動変容を促す

併用薬確認業務のひとつとして正式に位置付ける

入手した薬剤情報等を利用した相互作用チェックを強化し、プレアボイド報告を推奨

▶ 入手した薬剤情報をレセコン上で薬剤師がチェックしやすいシステムを開発する

薬剤師に気付きを与えて「薬剤情報」の存在を示し閲覧を促す

入手した薬剤情報を薬剤師が日常的に利用している相互作用確認画面に一元化表現

▶ 患者さまメリットにつながった優良事例を収集し全店へ共有する

マイナンバーカード利用率30%を超える薬局の受付オペレーションを他店にも紹介

オンライン資格確認が対人業務につながった好事例の収集と他店への共有



患者さまが自身で服用している薬の状況を把握してない場合であっても、オンライン資格確認を利用することで、重複投薬や相互作用について薬剤師が把握して、適切な薬学管理を提供できると実感しています。

患者さまメリットにつながった優良事例を収集し全店へ共有する

マイナンバーカード利用率30%以上の薬局受付オペレーションを他店にも紹介

ご案内動画

店舗での受付時の対応について、マイナンバーカードの所持の状況別の動画を作成



マイナンバーカードを持ってこなかった字書付_小.mp4



マイナンバー作っていない字書付_小.mp4



マイナンバー持ってきた字書付_小.mp4

取り組みの発表・共有

利用率の高い薬局

年月	2023年5月	2023年6月	2023年7月
薬局名	マインバ-利用 (%)	マインバ-利用 (%)	マインバ-利用 (%)
池内(宮崎)	58.96	56.84	57.56
小丸山(石川)	41.42	42.98	44.09
石巻(宮城)	42.38	44.83	41.84
ホリ(北海道)	43.06	39.84	41.31
舞鶴(京都)	36.41	40.05	40.30
しょうげん(静岡)	38.37	40.21	36.32
西成沢(茨城)	29.83	33.44	34.43
一色(岐阜)	32.92	37.89	33.80
旗の台駅前(東京)	33.25	29.78	32.62
戸越公園(東京)	35.43	33.11	32.19

■池内(宮崎)が高い理由(都道府県でもTOP)

→地域性：オペレーターの声掛け、市の職員が山岳部まで足を運びマイナを促進

受付時の対応事例共有

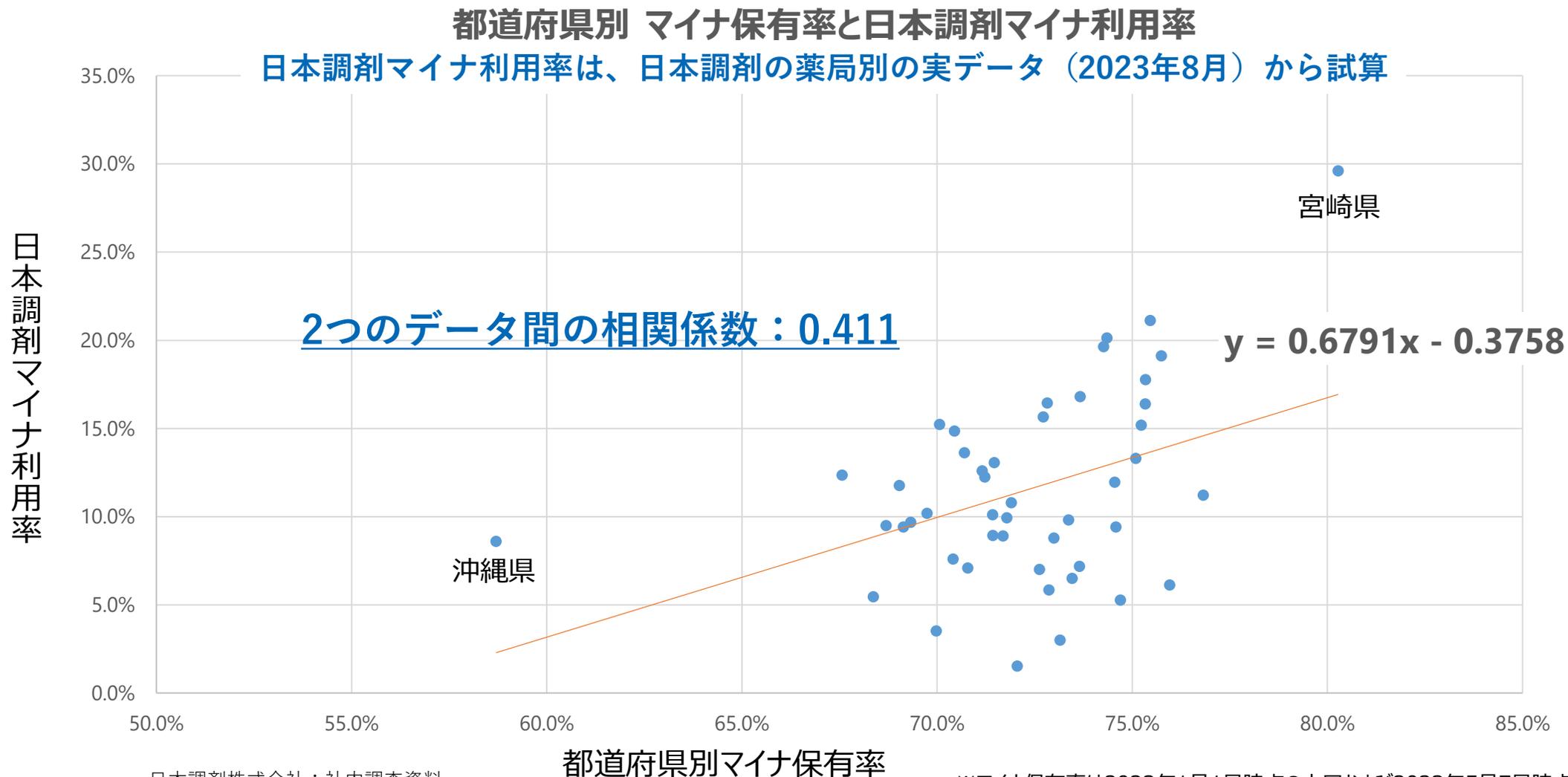
- 持参されている方
 - そもそも薬局で利用出来ることを知らない方が大半。少なくとも10%程度はすんなり利用していただける
- 自宅に保管している方
 - 次回持参を促すと特に高齢者は半数程度の方が持参いただける
(「使ったことないけど、薬局で使うものなのね」という反応)
- マイナンバーカードをお持ちでない方
 - 作成のおすすめ

<様々な反応に対する回答集を用意する>

- 患者「マイナンバーカードは自宅で金庫に保管している」
- 患者「こんな所でカードをかざして全部見られてしまうの?」
- 患者「保険証とマイナンバーカード両方持参なんて面倒」
- 患者「マイナンバーカードを使わないと薬をもらえないのか」
- 高齢患者「カード作るとかよくわからないしこのままで良い」
- 高齢患者「そんな大事なものは子供が全部持っていてわからない」
- 高齢患者「マイナンバーカードって何?」
- 代理家族「保険証と一緒に預かったけど暗証番号わからない」

院内投薬とのチェック	<p>病院で実施した抗ガン剤の点滴治療の内容を確認できたことで正確な治療情報を取得の上で副作用確認ができた。</p> <p>院内と院外の処方を受けている患者さま。院内でお渡しされている処方薬が処方されていないことを確認。疑義照会し、処方していただいた。</p> <p>お薬手帳に記載していただけていない院内処方の内容を把握することが出来て、重複投薬を回避することが出来た。</p>
併用禁忌回避	<p>お薬手帳不要の申し出のある患者さまにエナジア吸入用カプセル（配合喘息治療剤）中用量の処方があった。他病院でミニリンメルト（脳下垂体ホルモン剤）が処方されている事が確認でき、併用禁忌であるため疑義照会してウルティプロ（吸入気管支拡張配合剤）へ変更になった。</p> <p>他の薬局から前立腺肥大の薬が調剤されており、疑義照会でPL配合顆粒（前立腺肥大は禁忌）を処方削除してもらった。</p> <p>他の薬局から緑内障の目薬が調剤されており、疑義照会でゾルピデム（緑内障は禁忌）を処方削除してもらった。</p>
重複投薬回避	<p>レバミピド（胃粘膜保護薬）が処方されていたが、同時に他薬局でも同じレバミピドが処方されていて重複されていることを発見。今回処方分が処方削除となった。</p> <p>処方箋でミヤBM（整腸剤）が処方されていた患者様。他病院でラックビー（整腸剤）が処方されており、現在も服用中であることを確認。疑義照会によりミヤBMが削除になった。</p> <p>セルベックス（胃粘膜保護薬）の処方があった患者さまがお薬手帳お忘れであったが、他病院にてレバミピド（胃粘膜保護薬）服用中である事が確認でき、重複の為疑義照会して削除になった。</p> <p>院内処方に出ていたPPI（胃酸分泌を抑制する薬）と院外処方のH2ブロッカー（胃酸分泌を抑制する薬）との重複投与を防止できた。</p>
ポリファーマシー対策	<p>お薬手帳では確認ができなかった医療機関の情報により（3医療機関）、定期薬として15種類の使用を確認。ポリファーマシーの観点より、減薬提案を行い、その中でマイスリー、デエビゴ（いずれも不眠症の薬）がそれぞれの医療機関からでており、デエビゴが処方削除となった。</p>
疑義照会の削減	<p>デノタスチュアブル（プラリア・ランマークの副作用を防止する薬）の処方時、プラリア（骨粗しょう症薬）・ランマーク（抗がん剤）などの併用確認をするために本来疑義照会を実施するところ、薬剤情報の確認により処方が保険適応範囲と確認でき疑義照会が不要となった。</p>

マイナンバーカード利用率は、各地域におけるマイナンバーカード保有率の差が影響している



日本調剤株式会社：社内調査資料

※マイナ保有率は2023年1月1日時点の人口および2023年5月7日時点の保有枚数より算出

※日本調剤マイナ利用率は2023年8月時点、724薬局の都道府県ごとの平均値となります

